

# 平成23年度八重山群島病害虫発生予報第9号(12月予報)

## I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	50	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	20	20	40

(平成23年11月25日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	20.1	22.7	18.0	126.3	100.7

(沖縄気象台発表・統計期間1981~2010・資料年数30年)

## II 12月の発生予報および防除上の注意事項

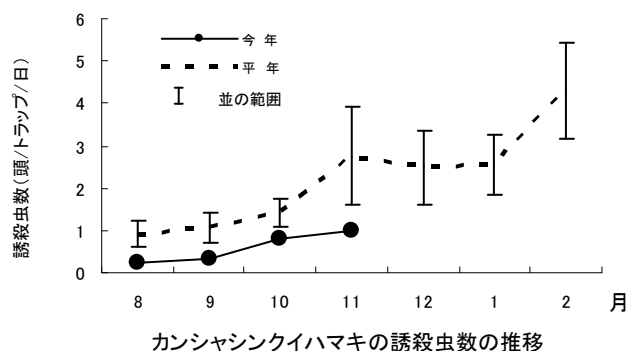
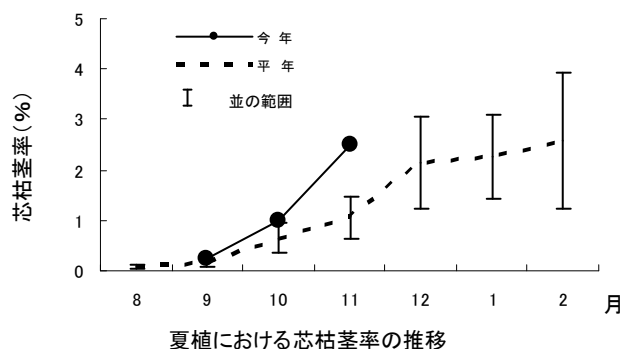
### 1 さとうきび

#### (1) メイチュウ類

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 11月中～下旬の調査の結果、新植圃場での芯枯茎率は2.5%(前年0.7%、平年1.1%)と平年より高かった。また、一部圃場で多発していた。
- b 11月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.0頭(前年3.1頭、平年2.8頭)と平年よりやや少なかった。



#### <防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 圃場内外のイネ科雑草は本種の発生源となるため除去する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、食入初期の防除を徹底する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選定し施用する。
- e 平成23年度病害虫発生予察技術情報第7号(平成23年12月1日付)参照。

## 2 マンゴー

- 花芽分化期の病虫害防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、一部施設でハダニ類の発生がみられた。
  - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の発生動向に注意し、防除を徹底する。
  - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
  - d 炭疽病、軸腐病およびかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
  - e 現在発生している不要な新梢は、病虫害の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

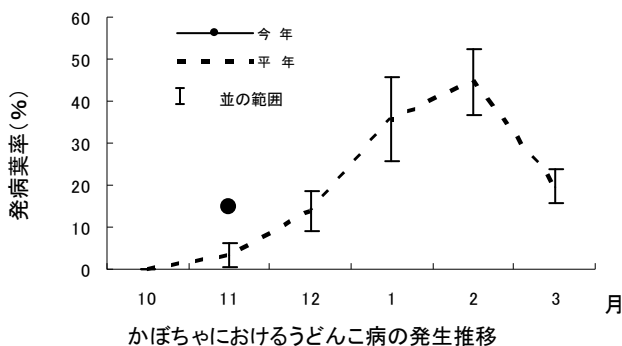
## 3 かぼちゃ

### (1) うどんこ病

発生程度 : やや多

予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は15.0% (平年3.3%)と平年より高かった。



### < 防除上注意すべき事項 >

- a 株元の老葉を除去し、透光通風をよくする。
  - b 着果期以降は本病の発生が増加しやすいので、予防散布を行う。
  - c 着果後は防除を徹底し、収穫時までできるだけ多くの健全葉を確保する。
  - d 多発すると防除が困難になるので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- 定植時および生育初期の病虫害防除対策
    - a 例年この時期には、ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、タバココナジラミ、ハモグリバエ類などの被害がみられる。
    - b アブラムシ類の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
    - c 定植時に粒剤を施用する。
    - d 病虫害の発生源となる圃場内外の雑草を除去する。
    - e ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。

## 4 オクラ

- フタテンミドリヒメヨコバイの防除対策
  - a 11月下旬の調査の結果、一部圃場で本種の多発生がみられた。
  - b 多発すると吸汁加害により葉の萎縮や黄化が進み生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、発生初期の防除を徹底する。
  - c 発生源となる圃場周辺の雑草を除去する。